

9/19(木) 10:30 配信

CNN.co.jp



[パイロットの飛行中の目撃報告について、米海軍が未確認物体であることを認めた](#)

(CNN) 空中を高速飛行する未確認飛行物体(UFO)をとらえたとされる映像について、米海軍がようやく、未確認物体に分類していることを確認した。

[【映像】UFOを捉えたとされる映像を見る](#)

正体不明の物体は、軍の機密指定が解除された3本の映像に映っている。海軍報道官はCNNの取材に対し、この物体を「未確認航空現象(UAP)」と形容した。

映像は2017年12月～18年3月にかけて公開されたもので、高速移動する長方形の物体を、高性能赤外線センサーがとらえている。

このうち2004年に撮影された映像では、センサーがとらえた物体は急加速して画面の左側に消えていた。センサーは物体の速度に追いつけず、再発見することはできなかった。

残る2本はいずれも2015年の映像で、戦闘機のパイロットが交わした「ドローンだ」「全部風に逆らってる」「見ろよ、あれ!」といった会話が収録されている。

海軍報道官によると、UAPに関する情報公開の目的は主に、パイロットの安全を脅かしかねない訓練空域への「侵入」について、訓練生による目撃情報の報告を促すことにある。

公開された映像がとらえているのは、海軍の訓練空域で頻繁に目撃される侵入事案のほんの一部にすぎないと報道官は強調。「長年の間、海軍のパイロットはそうした侵入事案を報告してこなかった。映像中に存在する、あるいは存在しないものに関する従来の用語や仮説には、パイロットの名誉を損なうような固定観念が付いて回ったからだ」と述べ、UAPの正体を探るためには、そうした物体を目撃した訓練生に報告を促すしかないと話している。

UFO じゃないよ。UFO じゃないけど...米海軍「未確認航空現象」を認める

9/19(木) 11:01 配信

GIZMODO



UFO じゃないよ。UFO じゃないけど...米海軍「未確認航空現象」を認める

でも UFO だと確認したワケでもない、という逃げ口上みたいな気も...

米海軍のパイロットが UFO の映像と思われるものを公開し、驚愕するコメントを交わした映像が公開されてから 1 年以上が経過しました。

そして米海軍関係者が声明を発表し、この映像が「説明できない航空現象」が実際に映っていることを認めた、と報じられています。

発端はあのミュージシャンの団体

2017 年 12 月と 2018 年 3 月、The New York Times は、元 Blink 182 の [トム・デロング](#) が設立した、怪しげな科学研究グループにして公益法人の To The Stars Academy of Arts (TTSAAS) によって掘り出された映像を掲載しました。

その動画は、機密扱いを解除された米国防総省の [未確認飛行物体](#) の映像だとされています。The New York Times が取りあげた最初の映像は、2012 年に国防総省が未確認の航空現象を調査する極秘軍事計画を遂行していたときのものだ、と報じられています。

TTSAAS は、ブログに投稿した記事で、最近公開された映像は 2015 年に F/A-18 スーパーホーネットによって撮影されたものだとしています。その記事には、「物体には見てわかる翼や排気口がなく、その飛行はいま知られている物理法則に反しているように見える」と書かれています。

当時ペンタゴンの広報担当者は、米 Gizmodo に対して「国防総省としては映像に対してコメントは差し控える」と話していました。

海軍が未確認の航空現象を認める

8 月のこと、機密解除された政府文書を掲載する The Black Vault というサイトの運営者で、個人研究家の [ジョン・グリーンウォルド](#) 氏は、海軍に対して「FLIR1」、「Gimbal」、「Go Fast」というタイトルの 3 本の映像

について情報を求めていました。

そして今月初めに The Black Vault に掲載された記事に、海軍情報戦争作戦部 [ジョセフ・グラディシャー](#) 副部長がグリーンウォルド氏に対し、「海軍は、これらの映像に含まれる物体を [未確認航空現象](#) と規定している」と返答した文章が載ることとなりました。

グリーンウォルド氏は、海軍が「未確認飛行物体」ではなく「未確認航空現象」というフレーズを使用していることについて質問しています。そこでグラディシャー副部長は、こう回答しています。

「未確認航空現象」という用語が使用されるのは、これが、様々な軍事統制訓練範囲の空域に進入/運用している未承認/未確認航空機/物体の目撃/観測といった基本的記述子を提供するからです
ちなみに米海軍事務所はまだ、米 Gizmodo からの本件に関する質問に答えていません。

別の取材にも同様のコメント

The Black Vault の記事の続報として、Motherboard が映像に関する追加の声明文を入手しました。そこでグラディシャー副部長はこう話しています。

海軍は、これら 3 つの映像に含まれている、あるいは描写されている現象を未確認のものと見なしています
グリーンウォルド氏は、Motherboard に対して「[未確認航空現象](#)」という言葉の使用は重要だと話しています。何故ならそれは、国防総省が以前に公表した公式文書で使用していた表現を使えば、米海軍はこれらの物体を「風船」あるいは「ドローン」と表現するだろう、と予想していたからなのだそうです。そしてこうも述べています。

しかし「風船」や「ドローン」だとは表現しませんでした。彼らは、これらの動画に描かれている「現象」は「未確認」であると述べ、それが記録に残ることとなったのです。それは私を本当に驚かせ、興味をそそらせ、興奮させ、真実をより強く推し進めようとしたのです

海軍は 4 月、関係する人員から不審な航空現象をどのように通報するのかという方法について、新たな指針を策定すると発表しました。この取り組みは、奇妙な目撃や経験を記録する工程を合理化することを目的としている、と伝えられています。Source: The New York Times, YouTube (1, 2, 3, 4), TTSAAS, The Black Vault, Motherboard 岡本玄介

米軍戦闘機が撮った UFO 映像「本物」と米海軍が認める

9/19(木) 14:16 配信



[スーパーホーネット戦闘機からの映像。超高速で飛ぶ物体を見た操縦士の興奮した声も入っている \(1:30~\)](#)

[To The Stars Academy of Arts & Science/YOUTUBE](#)

<米海軍機が空で捉えた飛行物体が「未確認航空現象 (UAP)」と分類され調査されていることがわかった>

米海軍は9月上旬、過去15年間に同軍の操縦士が撮影した飛行物体を「[未確認航空現象 \(UAP\)](#)」と分類し、調査していることをようやく認めた。

[動画を見る](#)

折しも9月20日には、ネバダ州の機密軍事施設「[エリア51](#)」にUFO愛好家が集結するイベントが計画されている。フェイスブックでの参加呼びかけに、約200万人が参加を表明している。

9月17日付のサンディエゴ・ユニオン・トリビューン紙によれば、映像は2004年と2015年に海軍のパイロットがサンディエゴ沖と大西洋上空で撮影したもので、全部で3本ある。

これらの映像は、機密解除された政府文書を公開する「ザ・ブラック・ボルト」というサイトが入手した。問題の映像には小型の飛行物体が高速で飛び回る様子が映っているが、海軍報道官はこの映像について「一切、説明も仮説もない」と述べている。

<「回転した」と興奮するパイロット>

「FLIR1」、「Gimbal」と「Go Fast」と題された3本のYouTube動画を公開したのは、ポップパンクバンド「[ブリンク182](#)」の元メンバーで、現在はUFO研究機関「[To the Stars Academy Arts and Science](#)」の共同創業者兼会長であるトム・デロングだ。

9月20日に開催予定のイベント「[エイリアンストック](#)」は、そもそも「会場」のエリア51自体が空軍の機密施設なので今頃はキャンセルされたと思われるが、それでも米政府は、イベント開催日前後に近くを飛ぶはずの飛行機をすべて飛行禁止にした。

エリア51は空軍の実験場や訓練場として使われているが、立ち入りが厳しく制限されているために「UFOや宇宙人の秘密が隠されている」という噂が絶えない。

(翻訳: 森美歩)

<https://www.cnn.co.jp/topic/space/>

09/21



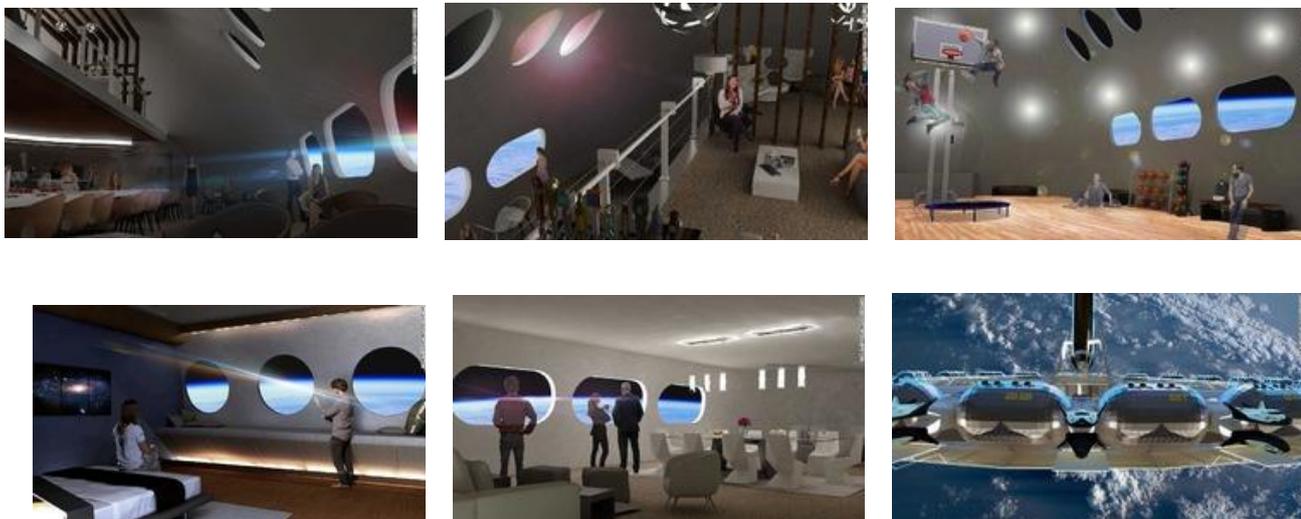
[宇宙ホテルの構想発表、27年のオープン目指す](#)

宇宙ホテルの構想発表、27年のオープン目指す

2019.09.21 Sat posted at 13:03 JST

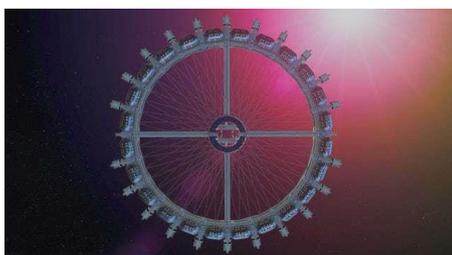
写真特集: 2027年宇宙の旅?、米企業が宇宙ホテルの構想発表

米カリフォルニア州の新興企業、ゲートウェー・ファウンデーションが宇宙空間に浮かぶホテルの建設構想を発表/Courtesy Gateway Foundation



(CNN) 宇宙空間に浮かぶ巨大な車輪のようなホテルの建設構想が発表された。2025年打ち上げ、27年の本格オープンを目指す。

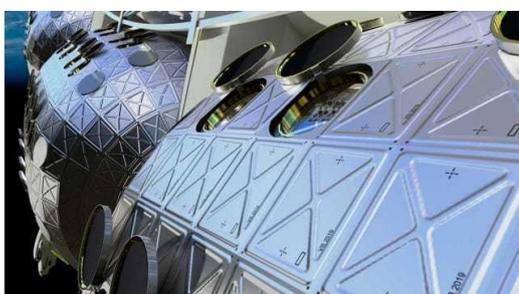
米カリフォルニア州の新興企業、ゲートウェー・ファウンデーションが開業を予定するホテルは、ドイツ生まれのロケット技術者ヴェルナー・フォン・ブラウン博士にちなんで「フォン・ブラウン・ステーション」と名付けられている。



巨大な車輪のような形状をした宇宙ホテル「フォン・ブラウン・ステーション」/Courtesy Gateway Foundation
同博士はナチス・ドイツのミサイル開発にかかわり、戦後は米国のアポロ計画に参加した人物。ホテルは同博士が60年ほど前に描いたデザインと同じく、遠心力で人工的に重力をつくり出すように設計されていることから、同社のメンバーが多数決でこの名を選んだ。

車輪型のホテルは24のモジュールで構成され、最大450人まで収容できる。館内はSF映画のように無機質な空間ではなく、カーペット敷きの客室やシックなバーなど、どこか地上を思わせるデザインだ。

宇宙ならではのアクティビティーも用意する。ホテルの中は地上より重力が小さく、高く飛んだり、重い物を持ち上げたりすることができるので、ひと味違ったバスケット・ボールなどが楽しめる。



ホテルを構成するモジュールの拡大画像/Courtesy Gateway Foundation

同社が目指すのは、初めてで珍しいからというだけでなく、宇宙滞在を楽しみたいという需要にこたえられるホテル。ごみを一切出さず、全てをリサイクルする「環境にやさしい」システムも魅力のひとつだ。

ただし、低重力の環境が長期滞在スタッフの体に及ぼす影響など、研究するべき課題はまだ残っている。

客室のイメージ図/Courtesy Gateway Foundation

地上での建設作業は来月1日から始まるという。

同様の宇宙プロジェクトとしては米新興企業オリオン・スパンが今年、定員12人の高級ホテルを22年にオープンする計画を発表していた。

09/13



新たな恒星間天体か？、太陽系に接近中の彗星発見

新たな恒星間天体か？、太陽系に接近中の彗星発見

2019.09.13 Fri posted at 15:55 JST

太陽系外から飛来したとみられる彗星をNASAなどの機関が観測した/Canada-France-Hawaii Telescope/NASA

(CNN) 太陽系外から初めて飛来した恒星間天体「オウムアムア」の発見から2年近く。米航空宇宙局(NASA)はこのほど、新たな恒星間天体とみられる彗星(すいせい)が接近中だと明らかにした。

彗星は先月30日、ゲナディー・ポリゾフ氏がクリミアにある天文台で最初に発見。その後、NASAジェット推進研究所のシステムでも太陽系外から来た天体である可能性が示され、NASAや欧州宇宙機関(ESA)の地球近傍天体研究施設で研究者が追加観測を行った。

この天体に付けられた名称は「C/2019 Q4(ポリゾフ)」。太陽系外を出発点とすることが正式に確認されたわけではないが、観測のチャンスはすぐに訪れそうだ。

天体は太陽系内部に向けて移動中で、来月26日に太陽系に入る予定。現在地球から望遠鏡で観測すると、太陽に近い位置に見える。プロ用の望遠鏡なら数カ月にわたり観測できる見通し。

地球には約3億600万キロの距離まで接近する。現在は太陽から4億2000万キロの位置にあり、太陽最接近は12月8日になる見通し。

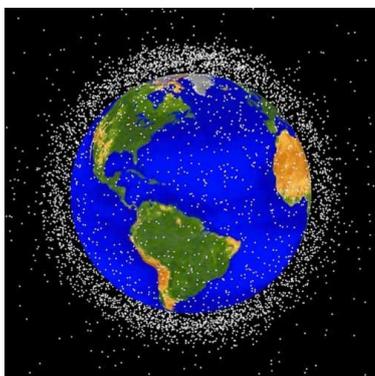
NASA地球近傍天体研究センターのダヴィデ・ファルノッキア氏によると、彗星の現在のスピードは時速約15万キロと、この距離にある通常の太陽周回天体をはるかに上回るという。

直径は約1.9~16キロとみられている。今後の観測でサイズや自転周期、進路も明らかになりそうだ。

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO49574190Z00C19A9MM8000/?nf=1>

宇宙の交通整理、日米が連携 衛星管制や「ごみ」除去 【イブニングスクープ】

2019/9/9 18:00



[画像の拡大](#)

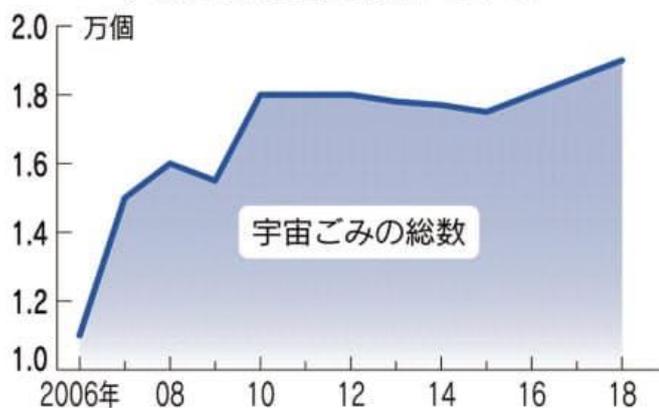
低軌道に存在する宇宙ごみのイメージ=NASA 提供

日米両政府は宇宙空間で人工衛星の事故が発生しないように「交通管理」の仕組みづくりで連携する。米商務省は航空機の管制システムのように衛星の位置を把握できる情報網を構築する。日本は宇宙の交通網を阻害する宇宙ごみ（スペースデブリ）の除去技術を 2020 年代半ばにも確立して協力する。将来の国際的な宇宙の交通ルール整備をにらみ、英仏など欧州との連携もめざす。

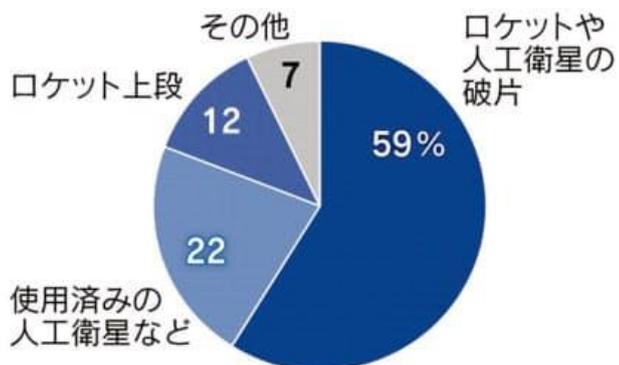
宇宙での国際協力はこれまで国際宇宙ステーション（ISS）が中心だった。米国の呼びかけで日本は欧州、カナダとともに 1985 年に計画への参加を表明し、冷戦終結後にロシアも加わった。こうした多国間の枠組みに加え、日米独自の新たな協力策を検討する。

宇宙開発は中国など新興国が急速に追いつけている。トランプ政権は 2024 年までに再び有人月面着陸を実現する「アルテミス計画」を打ち出した。月面探査や将来の火星探査の拠点として、月を回る新しい宇宙ステーション「ゲートウェイ」を構想する。5 月に訪米した菅義偉官房長官とペンス米副大統領の会談では宇宙分野での連携強化が話題になった。

宇宙ごみは増え続けている



宇宙ごみの内訳



(注) 米航空宇宙局(NASA)の資料を基に作成

[画像の拡大](#)

日米両政府が研究を進めるのは「宇宙交通管理 (STM)」と呼ぶ分野だ。7月にワシントンで開いた宇宙に関する政府間対話で協力の拡大を申し合わせた。

深刻なのは宇宙ごみの存在だ。宇宙空間は各国が人工衛星を独自のルールで飛ばしている。米航空宇宙局 (NASA) の統計によると、07年の中国による人工衛星破壊実験と09年の米国とロシアの衛星衝突事故を機に宇宙ごみが急増した。放置していると破片は衝突を繰り返して増え続ける。衛星やISSにぶつかれば被害は甚大だ。

宇宙空間の管制システムは現在、米軍が安全保障目的で開発している。ビジネス用途の衛星が増えており、米軍の管制業務の負担を軽くするため米商務省が民間も活用できる交通情報網をつくる。商務省は民間の衛星の動きを一手に把握し、他の衛星や宇宙ごみが接近すると警報を鳴らすシステムを検討する。

日本の宇宙ごみ除去技術は、安倍晋三首相が6月の20カ国・地域首脳会議 (G20大阪サミット) で実証実験を始めると表明した。22年までに実験用衛星を飛ばし、宇宙ごみに並走して画像を撮ったり動き方のデータを取ったりする。除去機能を持つ別の実験用衛星で宇宙ごみの捕獲を試みる。25年までに一連の技術の実用化をめざす。

欧州宇宙機関 (ESA) の資料によると、これまで打ち上げられた衛星の数は約8950基。NASAは10センチメートル以上の宇宙ごみ約2万個の存在を確認している。1~10センチは50万個、1ミリメートル以上は1億個以上あると推計するが、回収技術は世界的に確立されていない。

日米は宇宙ごみの監視や除去の研究を独自に進める欧州勢との協力を視野に入れる。中国やロシアとの連携も課題だ。中口を含む92カ国が加盟する国連宇宙空間平和利用委員会は6月、宇宙ごみの低減や衛星の安全維持に向けたガイドラインを採択した。

だが実際に衛星の衝突や宇宙ごみを減らすには、衛星破壊実験の抑制や国際的な通報・協議のメカニズムが重要になる。まずは日米を中心に関係国で交通管理の仕組みを共有し、国際交通ルールの整備につなげていく。

<https://news.livedoor.com/%e5%ae%87%e5%ae%99/topics/keyword/32398/>

宇宙 『宇宙』に関するニュース記事一覧。トピックスで扱われた注目ニュースを掲載しています。

9月20日 23時0分

● **ますますゴミで溢れかえる地球軌道環境 高まる人工衛星衝突の可能性**

その数は増え続けているため、それぞれが衝突する危険性も増している

ますます危険になる宇宙…高まる衝突事故の危険性 人工衛星 衝突の危険性高まる

2019年9月20日 23時0分 [ギズモード・ジャパン](#)



Image: [Twitter](#)

宇宙も大渋滞？

地球の周回軌道上には、[人工衛星](#)から宇宙ステーションまで、これまで人類によって打ち上げられた数々のものが存在しています。その数は増える一方でもあるため、それぞれが衝突してしまう危険性だって増しているわけでした！

このほど民間宇宙探査プロジェクトなどを進める米企業のBigelow Aerospaceは、米空軍から衝突の危険性を警

告するメッセージを受け取りました。2007年にBigelow Aerospaceが打ち上げた「Genesis II」は、実験用宇宙ステーションとしての役目を果たし、2011年に引退。現在も地球の周回軌道上にあって、2020年代には軌道から外れて地球から離れていく予定ではあったのですが…。

Today, we were notified by the US Air Force that there is a 5.6% chance that Genesis II will collide with dead Russian satellite Cosmos 1300 in 15 hours. Although this is a relatively low probability, it brings to light that low Earth orbit is becoming increasingly more littered. pic.twitter.com/l6McbDgRNo

- Bigelow Aerospace (@BigelowSpace) September 17, 2019

本日、Genesis IIが今後15時間以内にロシアの衛星の「Cosmos 1300」と衝突する危険性が、5.6%に高まったとする警告を米空軍から受け取った。非常に低い可能性ではあるものの、低地球軌道環境は、ますますゴミであふれていることを示す例となっている。

Bigelow Aerospaceは、このようなツイートを流しています。Genesis IIもCosmos 1300も、いずれもすでに役目を終えており、たとえ衝突したとしても、実務面で被害があるわけではありません。とはいえ、その衝突によって、また破片が地球の周回軌道上に散乱し、さらなる別の衝突の危険性を高めることになってしまおうでしょう。このままの勢いで、どんどんと特に規制もなく、各国が打ち上げたいだけ衛星などを打ち上げたら、その軌道上の大渋滞が引き起こすアクシデントは、ますます避けられないものになると、今回の例をきっかけに警鐘が鳴らされてもいるようですよ。

なお、Bigelow Aerospaceが、こうした衝突の危険性を事前に警告されるのは、今回が初めてだったとのこと。10%以上の確率であれば、実際に衝突する可能性が非常に高まるらしいのですが、こうした事態に今後迅速に対応できるよう、新しい衛星には退役後も軌道修正能力を持たせる方針が明らかにされています。

ちなみに、一般的な人工衛星と比較して、Genesis IIはサイズが大きいため、こうした危険予測の対象ともなったようですが、もっと小規模な古い衛星同士であれば、わりと頻繁に衝突しては、さらなる宇宙ゴミの発生へとつながっているんだとか。そのうち世界で規制が進み、これ以上は宇宙を危険な場所にしない試みが加速するのかもしれないよね～。 Source: Twitter

9月18日9時34分

太陽系外から直径数キロの彗星飛来か 確定すれば史上2例目

9月12日6時28分

太陽系以外の惑星から水を初検出「住むことができる最有力の候補」

研究者はこの惑星について、「住むことができる惑星の最有力の候補」と言明

9月11日22時51分

宇宙最初期に誕生した「老けた銀河」東京大研究者らが発見

東大などが135億年前の「星の形成の痕跡」発見 ビッグバン3億年後

6時1分

9月9日22時42分

[交信が途絶えていたインドの着陸機 月面で姿が確認されるも詳細不明](#)

インドの着陸機、月面に画像 通信回復せず、損傷も不明 印着陸機 月面で確認も詳細不明

2019年9月9日 22時42分



写真拡大

インドの打ち上げ後、宇宙空間で通信が途絶えた無人月面探査機「チャンドラヤーン2号」の着陸機「ビクラム」について、インド宇宙研究機関（ISRO）の幹部は9日、地元メディアに「月面で特定することができた」と語った。

月を周回している2号の衛星が、月面にある着陸機の画像をとらえたという。

地元メディアによると、この幹部は、着陸機が減速できずに月にほぼ衝突するような形だった可能性があるとして説明した。着陸機が損傷しているかどうかは不明だが、分解された状態ではないとした。ISROと着陸機との通信は途絶えたままで、今後、回復のための作業を続けるという。

<http://www.asahi.com/special/space/list.html>

宇宙・天文 記事一覧

- 東京) 太陽系を歩いて回ろう 三鷹でイベント(9/22)
- H2B打ち上げを再延期 ロシア宇宙船との衝突回避で(9/21)
- H2B打ち上げ、24日に再挑戦 本体に大きな損傷なし(9/20)
- 福井) 県民衛星の名称を募集 来年打ち上げ(9/20)
- もう一つのタイムマシン、加速器を求めて米バークリーへ(9/19)🔒
- 月着陸をめざしたインド 探査機との通信が途絶える(9/19)🔒
- 日本人の火星スケッチ、米国の聖地へ 50年間で数万枚(9/16)🔒
- 謎の天体が再び? 8月発見の彗星、猛スピードで接近中(9/15)🔒
- 鹿児島) 小型ロケット小さな一歩 鹿大教授ら初の実験(9/14)🔒
- 「中国に負けたくない」 インドの宇宙挑戦、技術の背景(9/13)🔒
- ビッグバンの前 生まれたばかりの宇宙の姿とらえる試み(9/12)🔒

https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/news/genre_science.shtml



【ギャラリー】星に願いを。思わず息をのむ美しい流星、写真6点

宇宙から飛来した隕石が、地球の大気圏に突入するときに光り輝く流れ星。その美しい姿に酔いしれます。

2019.09.21



金属小惑星の火山が隕石ジュエリーを生み出した？

誕生したばかりで太陽系が不安定だった時期、火山によってこれまでに知られている以上の金属が生み出された可能性がある、という新理論が発表され注目を浴びてい...

2019.09.21



衛星タイタンの湖は地下の爆発でできた 最新研究

土星で最大の衛星タイタンにあるメタンやエタンの湖。それらは地球の火山性クレーターに似ていて、地下にたまった窒素が爆発してできた可能性があるという。

2019.09.18



また太陽系の外から？急接近する奇妙な彗星を発見

太陽系を通り過ぎる恒星間天体の可能性が極めて高い彗星が新たに見つかった。もし本当なら、他の恒星系から飛来した天体を追跡できたケースとしては2例目になる...

2019.09.17



地中海に「失われた大陸」があった 最新研究

地中海の「失われた大陸」が明らかになった。その残骸はイタリアやバルカン半島の山々に残されていると言う。最新研究。

2019.09.14



系外惑星で水を確認 暑すぎない大気で生命存在も

地球から約 111 光年の距離にあるスーパーアースは、既知の系外惑星の中では生命が存在できる可能性が高いという。

2019.09.14
